

兵庫県立社高等学校第七十四回卒業証書授与式 校長式辞

厳しい寒さだった冬も終わりを告げ、暖かな日差しが感じられる今日の良き日に、兵庫県議会議員藤本百男様、PTA会長沼田康秀様のご臨席、卒業生の保護者の皆様のご列席のもと、兵庫県立社高等学校第七十四回卒業式を執り行うことができますことは、私どもにとってこの上ない喜びであり、誠に嬉しく存じますとともに本校を代表し、深く感謝申し上げます。

先ほど卒業証書を授与しました第七十四回生百九十二名の皆さん。ご卒業おめでとうございます。職員一同、心よりお祝い申し上げます。

そして保護者の皆様、本日、お子様がご卒業を迎えられますことを職員一同お喜び申し上げます。誠にありがとうございます。本校入学以来三年間、特に二年生以降は新型コロナ感染と向き合う中で、生徒と共に過ごされた日々を思い出し、その成長を実感されていることと存じます。またその三年間、本校教育活動にご理解並びにご協力賜りましたこと、この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

さて、令和二年三月より世界を不安にさせた新型コロナウイルスの影響はその後も続き、学校教育活動に大きな影響を与えました。皆さんが二年生の時は文化祭、修学旅行が、三年生では遠足、体育大会が実施できなくなり、学校として、クラスとして、一体感を味わう行事を持つことができませんでした。「なぜ私たちだけができないのか」という残念な思いで一杯だったと思います。そんな中、先生方の熱意と保護者の皆様のご協力の下、1泊2日ではありましたが県内テーマパークの体験活動を軸とした修学旅行の代替行事を実施することができ、皆さんの笑顔を久しぶりに見ることができたときはやって良かったと思いました。また、文化祭の代替行事として行った文化発表会では生徒会を中心に準備を進め、飲食関係をせず、全クラスステージ発表という内容に取り組むことを決め、限られた中で最大限の準備をし、工夫して素晴らしい発表会を実現してくれました。予定時間を超えましたが、終わったときの達成感、やりきった感、充実感は久しぶりに味わった大きな感動だったように思います。学校行事や学校全体として取り組むことの大切さを再確認できた瞬間でした。その後は、東京オリンピック、パラリンピックの開催で日本中が盛り上がる中、感染者も急増し、9月以降は大きな制限を受けることとなりました。体育大会は練習が十分にできないことから全体での実施をやめ、学年毎の体育的行事で代替するという形をとりました。体育科の皆さんにとっては、集団演技の披露の場を奪われることになり、とても残念だったと思います。こういった厳しい状況の中ではありましたが、皆さんは何事にも前向きに、そして真摯に取り組んでくれました。また一人ひとりが感染防止対策をしっかりとしてくれたお陰で、学校教育活動を大きく止めることなく進めることができました。本当にありがとう。

それぞれの学科に目を移すと、体育科はスキー実習が十分にできなくなるなど実習面では活動が随分と制限されました。しかしながら部活動では、昨年度、大会がなくなり卒業していった七十三回生の分まで頑張ろうとする姿勢が随所に見られ、多くの成果を収めてくれたと思います。柔道部の全国インターハイ入賞、陸上部の全国大

会出場、バレー部、バドミントン部の近畿大会出場をはじめ、野球部が夏の県大会でベスト4に入るなど素晴らしい成果を上げてくれました。その勢いで、野球部は秋の県大会では創部以来初めての優勝、サッカー部は県新人大会ベスト8など、後輩たちにも多くのことを引き継いでくれたように思います。寮生の皆さんは寮のあり方をしっかりと考え、寮生活のあるべき姿を見せてくれました。体育科で学んだ厳しさと自らが目標に向けて努力したことを忘れることなく今後の生活に活かして頑張ってください。

生活科学科の皆さんは、多くの実習や校外活動が制限され、成果を発表する場面が減少しました。それでも真摯に目の前の課題に取り組み、工夫して考えてできる限りの経験を積むことはできたのではないのでしょうか。加東市観光ツアーでは学科がチームとなり、おもてなしを考えました。また、もち麦の商品開発や広報については継続的に取組を進めてくれました。そのような取組は今後も下級生に引き継がれ、さらなる地域振興に、発展的につながるものと考えています。高校での経験を活かし、それぞれの進路での活躍を期待しています。

看護医療類型では課題研究発表会での発表が印象的でした。同時に進路実現に結びつける人が多く、学校の特色として素晴らしいことだと思いました。また学校全体的にも水泳部の近畿大会出場、ソフトボール部の県総体ベスト8、文化部の県総文入賞など部活動を頑張る一方で「何か人の役に立ちたい」と考えている人は多く、これは社高校生の素晴らしいところだと誇りに思っています。私との面談でも皆さんに話しましたが、自らの長所を活かし、周りの人を活かせるよう心の引き出しを増やして頑張ってください。

さて、そんな皆さんに、これから考えてほしいことをお伝えしたいと思います。それは「虫の目、鳥の目、魚の目、コウモリの目を持つ」ということです。虫は、身の回りの細かなことをしっかりと見る目があります。鳥は空から俯瞰的に全体を見ることができます。魚は水の流れに乗りながら周りを見ることができます。そしてコウモリは逆さまにぶら下がることで反対にも物を見ることができます。皆さんの生活に置き換えると、身近なところをしっかりと見て準備を進める、計画や目標を達成するまでの全体像を見て考える、時代の流れや社会全体の雰囲気を知り、時として物事を反対側から見てみるということです。これからの社会は、自分の考えを通すだけでなく、それが客観的にどうなのかを考え、さらに社会全体のことを考え、行動できるようにしていく、行き詰まったときは諦めずに反対から物事を見て考えてみるなど、視野の広さや懐の深さが求められます。社高校での貴重な経験を活かし、多くの方々とふれあう中で物事をしっかりと考え、行動できるようになってください。そして皆さんの良いところをしっかりと伸ばし、多くの人から認められ、社会に貢献できる人材として活躍してくれることを期待しています。

皆さんの健康と今後ますますのご活躍を職員一同祈念申し上げ、式辞とさせていただきます。

令和四年二月二十七日
兵庫県立社高等学校
校長 若浦直樹